

平成25年度「みえの現場・すこいやんかトーク」(伊賀市)の概要

7月14日(日)に伊賀市の阿波地区市民センターで「みえの現場・すこいやんかトーク」を開催しました。

当日は、阿波地域住民自治協議会「あわてんぼう」の関係者の皆さん13名の方にお集まりいただき、活動内容や将来への思い、行政へ期待していることなどについて、ご意見などをお伺いしました。



【参加者からの発言】

参加者の皆さんから、以下のようなご意見をいただきました。

- 平成16年の伊賀市の合併時に、自分たちの地域は自分たちでとの考えのもと、地域住民自治協議会の女性委員会の12名で「あわてんぼう」を立ち上げた。会議の時に、みんなでスイーツを作ったり、女性目線で、防災訓練の炊き出しや、ふれあい運動会の昼食、山里コンサートやさるびの寄席、中国やタイの方々との意見交換会の食事など、一堂に会する行事に「地産地消」のもと各種イベントに参加した。
- おもてなしから事業化へ、また、閉園になった保育園も、行政の協力で借用もいただいた。現在では、三重県にNPO法人の申請もしている。山里レストランの営業許可もどうにか目途がたった。あとは、拠点施設の整備・改修もあるが、何とか過疎に負けない、地域づくりに頑張っていきたい。

Q、この活動に参加して、良かったこと、嬉しかったこと、感動したことはありますか？

- 今年の収穫祭に参加して、「稲穂焼き」が好評なのが嬉しかった。
- この3月の保育園の閉園にあわせて、趣味で絵本を製作した。思い出として作った

絵本なので、本日、知事に贈呈したい。

まつりで出した「稲穂焼き」に行列、並んで購入してくれる人を見てすごく嬉しかった。

女性パワーが寄ってきた。女性だけで結集できた。パワフルで理解力があり、料理の上手な人がいた。県の「ビジネスプランコンテスト」で表彰もされた。「夢がかたちになっていく」のはとても嬉しいことである。特に知事が来てくれたことが嬉しい。

商品化はみんなに食べてもらい、色んな意見が出て、「稲穂焼き」になった。昨年の暮れにはおせち料理を3セット作った。ジビエ料理も出口先生にも教わった。タイの方々をもてなして、しし肉などとても好評であった。パフェの中身は冬瓜であり、とても好評である。3月の「サヨナライベント」では、子どもたちにドーナツをプレゼントした。そのような取組が励みになり、力になっている。

この会、「あわてんぼう」に入れていただいて楽しくやっている。料理が楽しみ。自分の居場所を決めた。独居老人に、食事（お弁当）を届けている。普段は一人で寂しい。弁当を届けることで、来てくれることを楽しく待っていてくれる。もっともっとお弁当を食べていただきたい。生きがいを感じる。高齢者も喜んでくれている。

Q.この活動をより良くしていくために、こんな課題があるんだとか、行政からはこんなお手伝いがしてほしいなどありませんか？

「仕組み」を変えてほしい。伊賀市と契約を交わしている大手の配食サービス事業者さんは、住宅の訪問、食事の提供、安否の確認をすると市から、見守り料として1食あたり、199円もらっている。自分たちがしようと思ったら、小規模なのでだめなようである。小規模であっても「仕組み」を変えて見守り料をいただけるようにしてほしい。今後、高齢者がどんどん増えてくるから、そんな「仕組み」を、大手の配食だけではなく、私たちのような小規模事業者にも配食料をいただけるような「仕組み」をお願いしたい。

小学校も保育園も廃校、廃園になった。地域で唯一のお店も閉店になった。行政バスもこない。これでは、独居老人は買い物もいけない。唯一、三交バスで伊賀市の中心まで買い物に行くと片道720円で往復で1440円かかる。日常生活のものが買えない。本当の過疎になった。市に合併してからいけない。

子どもの保育園があった頃は交流があった。今はない。山里レストランでは、人が集える場所づくり、半分のスペースは若い人が集まれる教室を開いてはどうかと考えている。また、舞台があるのでライブとかやったらどうかと思っている。レストランもお金は掛けられない。子どもも大人も集まれるところでなければいけない。また、他の地域で若い人を集めているような参考事例があれば教えてほしい。

【知事の発言】

皆さんからのご意見を受け、知事からは次のような発言がありました。

「そば」「稲穂焼き」などたくさん試食させていただいた。それぞれに美味しいものばかりであった。私の好みは特にさつま芋のレーズン入り稲穂焼きであった。おろしそばも非常においしかったし、紅芋の稲穂焼きには、私の好みであるが、生

クリームを入れたバージョンもいいかもしれない。

お祭りで販売すると行列ができるワケ、秘訣は、作り手が元気なことと、活動が楽しいところかもしれない。楽しい処には人は寄ってくるものだと思う。

チームとして色んなことにチャレンジして成功している。個人ではなく、チームが良い。

大規模な企業等は地域の高齢者にお弁当を宅配することによって「見守り料」ということでお金が出ている制度をお聞きした。小規模ではどうなのか、その「仕組み」制度を一度、確認したい。

行政バスがなくなり、地域の唯一の店も閉店し、日常生活のものが買えないなど本当の過疎になったなどの声をお聞きした。買い物支援、地域交通のあり方も重要な問題である。どうしたらいいか。高齢化も大きな課題でありよく相談したい。

子どもの保育園があった頃は交流があったが今は廃園になってしまった。県でも県立高校を統合したり、同じ問題がある。苦渋の選択だった。子どもたちにとって、同世代の子どもたちと、一定規模の中で活動するなど、一定の人数があると教育効果もあがる。子どもの人生のことを考えて決断したと思う。そのことをご理解いただいた上で、施設の活用方法、若い人達が集う、音楽ライブをやったり、熊野で16年間まつりをやって、3000人の方が集まったイベントもある。県内でも色んな事例がある。県からそのような活用事例を提供したい。



【阿波地域住民自治協議会「あわてんぼう」の皆さんとは】

阿波地域住民自治協議会では、食を通じた地域活性化に取り組んでいます。地元の野菜を使ったメニューや弁当、ジビエ（猪や鹿の肉）を活かした料理、冬瓜（とうがん）パフェなどを開発し、元保育園（現在閉園）で山里レストラン（開設予定）を拠点とした地域活性化を目指して活動することを目的とした会の皆さんです。